

令和5年度

福島県 大学生の力を活用した集落復興支援事業  
鮫川村真坂集落業務実施報告書

東京農業大学 SATOYAMACreators

指導教員 東京農業大学地域創成科学科地域デザイン研究室 入江彰昭

## 目次

第1章 団体概要	2
第2章 対象地域概要	
2-1 真坂集落について	
2-1-1 真坂集落の現状	3
2-1-2 真坂集落の年間スケジュール	4
2-2 真坂農村公園について	
2-2-1 誕生の経緯	5
2-2-2 かつての利用	6
2-2-3 現在の利用	6
第3章 活動報告	
3-1 活動スケジュール	7
3-2 各活動内容の詳細	
3-2-1 第1回の活動について	7
3-2-2 第2回の活動について	8
3-2-3 第3回の活動について	9
第4章 集落の方への聞き取り調査	10
第5章 集落の課題	11
第6章 今後の展望	12
第6章 まとめ	12

謝辞

## 第1章 団体概要

東京農業大学 SATOYAMA Creators は、「文化が景観をつくり、教育で文化をつなぐ」を活動理念とし、大学生と地域住民、役場が交流、連携しながら里山資源を活かした地域づくり及び地域活性化を図ることを目的として設立した。指導教員1名と学生9名（令和5年度時点の人数）からなる。里山全体をフィールドとし、地域住民との交流を通じて、地域の文化を学び、地域景観を保全し、教育を通じて文化を継承する活動を行っている。

本事業での対象地である福島県東白川郡鮫川村の真坂集落は、当団体が設立する前から地域住民の方々と交流を重ねており、人口減少や高齢化等の集落の課題を目の当たりにしていた。そこで学生が集落に入り、交流することで、学生が持つアイデアと集落の方々の希望を融合させ、鮫川村の優れた里山資源を活かした地域活性化を行うことを目指している。



## 第2章 対象地域概要

### 2-1 真坂集落

#### 2-1-1 真坂集落の現状

阿武隈高原の中山間地域に位置する鮫川村には、田んぼと山林に囲まれた美しい里山景観が数多く見られる。真坂集落は村内で比較的中心地に近い、真坂農村公園を中心とした一集落である。かつては水稻や養蚕、畜産業など農業が盛んで集落が一丸となり助け合って生活してきた。地域内のつながりは今も強く、春・秋の祭礼や芋煮会、イルミネーションの飾り付け、小正月の酉小屋（どんと焼き）など多くの行事で結束力を見せている。

鮫川村全体の高齢化率が40%を超えているように、真坂集落の高齢化も例外ではない。地域の担い手が減少していくなかで、真坂農村公園の美しい景観や地域の取り組みを次の世代にどのように残していくかが、大きな課題となっている。特に景観の維持管理に関しては、夏場の草刈りや農地・公園の管理など、体力を使う外仕事が多いため、現在活動の中心となっている70代が引退すれば一層難しくなると考えられる。

そんな真坂集落に学生が入り、学生が持つアイデアと集落の方々の希望を融合し、真坂集落の中心である真坂農村公園をより集落の方々が愛着を持てる場所にすることができればと思い本事業に応募し、活動を行った。



鮫川村の風景

## 2-1-2 真坂集落の年間スケジュール

真坂集落の行事等の年間スケジュールは下記の表-1のとおりである。なお、日時については多少の前後があるため、月単位での記載を基本としている。

表-1 真坂集落の行事等の年間スケジュール

日時	内容
5月3日	総会（年間スケジュール決め）
5月	さなぼり <sup>1)</sup>
7月 土用の丑の日	大掃除、草刈り、メンテナンス
9月	旗あげ（お祭） <sup>2)</sup>
10月	中野地区の体育祭（現在は行っていない）
11月	芋煮会、イルミネーション設置
1月 小正月	酉小屋（どんど焼き）

### 注釈

- 1) さなぼりとは、田植え後に田の神様を送るための祭事である。
- 2) 旗あげとは、竹に大きな旗をつけて真坂集落公民館の前に立てるといふもの。



草刈り（上段）と酉小屋（下段）の様子

## 2-2 真坂農村公園

### 2-2-1 誕生の経緯

今から 30 年ほど前に田んぼの区画整備として作られた公園であり、整備には地元のゆき建設さんが関わった。公園内には、とりあげ石といわれる大きな石があり、その石を中心として公園が作られた。この石は別の場所に作られる予定であった城の石垣に使われる予定で、運ばれてきた。運ぶ途中で現在の場所に仮置されたが、いつの間にか動かせなくなってしまった。このとりあげ石には、石にお参りをすると子供を授かるといういわれがある。



真坂農村公園ととりあげ石（右下）

### 2-2-2 かつての利用

かつて真坂農村公園では、相撲大会や飲み会等が開催され、50～100人ほどの人が集まることもあったが、現在では集まる機会はなくなっている。

公園内には川が流れており、その川から水を引き込み池も作られていた。川では夏に水浴びをしたり、池では鯉に餌をあげたり、冬場には凍らせてスケートをしたりしていた。このようにかつての公園は集落の方々に日常的に利用され、人が集まる場所であった。池については、上流からの土砂等によって現在は埋もれてなくなっている。

### 2-2-3 現在の利用

鮫川村から依頼されるかたちで、公園の管理を集落の皆さんで行っている。集落で連絡を流し草刈り等を行っている。草刈りは年に4～5回、23世帯ほどの人達が集まって1時間半かけて行っている。23世帯ほどとは、真坂集落の中で4つにグループ分けがされており、分かれたグループごとに草刈りを順番に行っている。

毎年、冬にイルミネーションを設置している。11月下旬に設置し、1月中旬の酉小屋行事までの期間で行っていて、集落の方々が協力して行っている。このイルミネーションは中山間地域に向けた補助金を受けたため、15年ほど前から始めたものである。年数を重ねるごとに規模が大きくなっていき、竹で型を作ってキャラクターを作ったりもしている。

現在でも集落の方々によって管理作業が続けられているが、かつてのような日常的に利用されることがなくなってしまう。



イルミネーションの様子

### 第3章 活動内容

#### 3-1 年間スケジュール

令和5年度の本事業における活動日時と内容は下記の表-2のとおりである。

表-2 活動スケジュールと活動内容

活動日時	実態調査内容
第1回 2023年7月23日	草刈りや選定等の真坂農村公園整備
第2回 2023年11月26日	真坂農村公園でのイルミネーション設置 芋煮会への参加 真坂農村公園について集落の方への聞き取り調査
第3回 2024年1月14日	真坂農村公園でのイルミネーション撤去 西小屋への参加

#### 3-2 各実態調査の詳細

##### 3-2-1 第1回の活動について

1回目の活動は、2023年7月23日に真坂農村公園の整備を行った。参加者は本団体会員6名、学部生8名、教員1名、鮫川村役場職員2名の計17名である。

真坂農村公園の整備は、集落の方々と一緒に行った。主に刈り払い機による草刈り、鎌による草刈り、低木の剪定の3つのグループに分かれ、朝6時から朝食休憩を挟み、11時半ごろまで作業を行った。雑草が広く繁茂しており作業量も多く、気温も高かったため体力を使う作業ではあったが、協力し分担しながら作業を進めることができた。



公園整備作業の様子



### 3-2-2 第2回の活動について

2回目の活動は、2023年11月26日に真坂農村公園にてイルミネーションの設置とその後の芋煮会へ参加し、公園について集落の方へ聞き取り調査を行った。参加者は、本団体のメンバー7名、学部生3名、教員1名、卒業生1名、鮫川村役場職員2名の計14名である。

イルミネーション設置は、集落の方々と公園内の樹木や植え込み、とりあげ石等に設置した。手が届かない高い場所は脚立や鉄パイプ等を使い設置した。イルミネーション設置では、平行して芋煮会の準備もすすめられ、男子学生はイルミネーション設置、女子学生は芋煮会の準備とそれぞれ分かれて作業を行った。その後の芋煮会では、集落の方々に公園についての聞き取り調査を行い、作られた経緯からかつての利用や現在の管理に至るまで幅広くお話を伺うことができた。



イルミネーション設置作業の様子



芋煮会準備の様子



芋煮会での聞き取り調査の様子

### 3-2-3 第3回の活動について

3回目の活動は、2024年1月14日にイルミネーションの撤去と酉小屋への参加である。参加者は、本団体員5名、学部生5名、教員1名、鮫川村役場職員2名の計13名である。

集落行事である酉小屋は、竹で組んだ小屋の中にお供え物を入れて燃やすというもので、伝統的な行事となっている。今回の活動では、竹林から切り出した竹を切り、小屋を建てる段階からお手伝いさせていただいた。男子学生が酉小屋の準備作業を行い、女子学生は懇親会の準備作業を行った。小屋の設置後に懇親会を行い、16時半ごろより酉小屋の本番である火入れ等を行った。コロナによって学生が集落行事に参加することがなかったため、多くの学生が初めての経験であり、とても良い体験となった。



酉小屋準備作業の様子



懇親会準備作業の様子



酉小屋の様子



懇親会の様子

#### 第4章 集落の方々への聞き取り調査

第2回の活動にて集落の方々への聞き取り調査を実施した。芋煮会に参加させていただき、その場をお借りし、聞き取り調査を行った。聞き取り調査で集落の方々に尋ねた項目は主に公園のできた経緯、かつての利用、現在の利用、今後はどのようにしていきたいかの4つである。聞き取り調査の項目及び聞き取り結果は表-3のとおりである。

表-3 聞き取り調査の項目及び聞き取り結果

項目	集落の方々のお話・意見等
真坂農村公園のできた経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約30年前にできた。</li> <li>・田んぼの区画整備により道路を作る時に空き地になったところを公園とした。もともとは田んぼであった。</li> <li>・公園にある石(とりあげ石)はお城を作るための石垣に使う予定だったが置いていたらいつの間にか動かなくなった。石に神様を祀るようになったのは150年ぐらい前である。</li> <li>・公園整備にはゆさ建設さんが関わっている。</li> </ul>
かつての公園の様子や利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かつてあった池は土砂の流入等によって自然に埋まってしまった。</li> <li>・相撲をしたり、飲み会で50~100人集まっていた。</li> <li>・水量が少ないから、川を止めて水浴びをしていた。</li> <li>・池を凍らせてスケートをしていた。スケート靴は長靴で作っていた。</li> <li>・20年ほど前まではホテルが見られ、家にも入ってくることもあった。</li> </ul>
今はどうしてるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鮫川村から依頼されて集落皆さんで管理している。</li> <li>・草刈りは基本全員参加で、連絡を回している。</li> <li>・草刈りは年4、5回行い、1回あたり23世帯ほどの人が集まり1時間半ぐらい作業をする。夏場は草が伸びるので月1回草刈りしている。</li> <li>・草刈りは集落を23世帯ほどずつのグループ4つに分け、グループごとに順番に行っている。</li> <li>・東日本大震災後に池に溜まっていた砂を掘り出したことがある。</li> <li>・草刈り等の管理作業はしているが、利用はしていない。</li> </ul>
今後について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埋まってしまった池は戻さなくてもいいのでは。</li> <li>・草刈りとイルミネーションは現状のまま続けたい。</li> <li>・利用が増える管理をしたい。地主植栽をしたりできそう。</li> <li>・お賽銭やお酒をかけると子供を授かるというとりあげ石の言い伝えをアピールしたい。</li> <li>・行事は薄くなっているが復活させたい。</li> <li>・正月の酉小屋等の行事は続けたい。</li> </ul>

## 第5章 集落の課題

集落の課題としては、高齢化があげられる。現在の集落行事や公園整備の中心となっているのが60～70代の方々であり、今後の集落活動の維持が課題となっていくと考えられる。

聞き取り調査から公園について集落の方々には現状の管理作業とイルミネーション、集落行事を継続していきたいということが分かった。また、公園にあるとりあげ石について、お賽銭やお酒をかけると子供が授かるという言い伝えをアピールしたいということも分かった。真坂農村公園においても今後の管理等が課題となっていく中で、集落の方からも上がっているイルミネーションやとりあげ石のアピール等、集落外に向けた発信が必要であると考えられる。加えて、公園が集落の方々によって日常的に利用されるような場所となることも課題の1つであると考えられる。

## 第6章 今後の展望（実態調査から得られた活性化策の効果及び改善点）

現在の真坂農村公園は、日常的に公園に人があまりいない状態であると考えられ、利用が進まないことに繋がっていると思う。そのため、立ち寄りたいたいと思ってもらえる場所にすることが重要である。とりあげ石やイルミネーション等の見所を集落の外にまで広く発信することで外から来た人が立ち寄るきっかけになると思う。また、集落の方々も行事や集会等の開催によって公園に立ち寄る機会を増やすことも良いと思う。日常的に公園を利用し、公園の持つ魅力や課題に気づくことで、それらを活かし、改善することでさらに利用しやすい環境になると考えられる。その過程で、学生が管理作業や行事と一緒に参加することで交流が生まれ、新たなアイデア等の発見にも繋がると思う。このように真坂農村公園を立ち寄りたいたいと思える場所にすることで、現在の課題の解決と活動によって知ったことを活かせるきっかけになると考える。

## 第7章 まとめ

本事業を通して、真坂農村公園を中心とした真坂集落のことを深く知ることができた。活動においては、集落の方々と作業を一緒に行うことや芋煮会や懇親会等の交流の場で集落の方々から直接お話を伺う機会も多かった。その中で、かつての様子から現在の公園の様子や集落の方々の思いを知り、そこから集落の活かせる地域資源を見つけることができたと同時に課題も見つかった。1年目で見つけた活かせる地域資源と課題をもとに今後は、学生のアイデアを加えながら、課題を解決するだけでなく、地域資源を活かせるような環境をつくるために活動を行っていきたいと考えている。

また、活動を通して集落の方々との交流の大切さを強く感じた。自分達で調べて知ったこと、見たことの情報では分からないこと、気づかないことが多くあることを目の当たりにした1年目であった。なので、今後も活動を続けていく中では、本団体が大切にしている「交流」をしっかりと行い、「交流」から多くのことを発見していけるようにしたと考えている。



## 謝辞

本事業を行うにあたり、福島県東白川郡鮫川村役場、鮫川村真坂集落の方々にはお忙しい中でも、いつも温かく学生を迎え入れていただき、活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。また、本事業において事業を支

えていただいた福島県地域振興課の皆様、社会システム株式会社の皆様には大変お世話になりました。御礼申し上げます。